

上田地域定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議概要

- 1 日 時 平成26年2月26日(水) 午前 10時から11時50分まで
- 2 会 場 ひとまちげんき・健康プラザ 多目的ホール
- 3 出席者 別紙『上田地域定住自立圏 共生ビジョン懇談会 委員名簿』のとおり
(欠席委員：桑原秀明 委員、小岩井彰 委員、小林忠正 委員、芳坂榮一 委員)
- 4 オブザーバー 上小地方事務所地域政策課
- 5 行政関係出席者 別紙名簿のとおり
- 6 公開・非公開等の別 公開
- 7 傍聴者 0人 / 取材記者等 4社
- 8 会議概要作成年月日 平成26年 3月 5日

協 議 事 項 等

- 1 開会
(司会：上田市政策企画課長)
 - 2 委嘱状交付
机の上にあらかじめ配布してある委嘱状の確認をもって委嘱状の交付とさせていただいた。
 - 3 あいさつ
母袋創一上田市長からご挨拶申し上げた。
 - 4 委員自己紹介
50音順名簿の順で、委員の自己紹介を行った。
 - 5 会長・副会長選出
規約では互選により選出するとなっているが、丸山委員から事務局提案の提示を求める発議をいただき、
会長に委員名簿の23番の宮本智夫様、副会長に委員名簿の12番の高藤武文様
という案を事務局から提案し、委員の皆様からご了解いただき、決定。
 - 6 議事 (進行：宮本会長)
 - (1)上田地域定住自立圏について
事務局(上田市政策企画課)から資料2に沿って説明
<委員等からの質疑等なし>
 - (2)平成25年度の取組状況について
事務局(上田市政策企画課)から資料3に沿って説明
<委員等からの質疑等なし>
 - (3)平成26年度の取組及び共生ビジョン(変更案)について
事務局(上田市政策企画課)から資料4、資料5に沿って説明
<質疑応答>
- (丸山委員)
活力ある定住自立圏の発展を考えると、生産人口、特に正社員をいかに増やし、地域間競争に勝っていくということが重要と考える。
正社員の就業機会となるこの地域の事業所の数、あるいは規模を大きくする方法として、資料の説明にある「しあわせ信州シェアスペース」を活用するなかで、企業誘致につながる企業情報を積極的に収集するなど、行政として企業誘致の取組を行っていただきたい。

(上田市商工課長兼雇用促進室長)

生産人口を増やす取組として、この地域から県外の大学や専門学校に進学した学生や若者が当地域に目を向け、この地域に就職してもらえるような取組に力を入れている。具体的には、昨年10月に開催した上田地域産業展において学生就労支援フォーラムを開催し、首都圏等に出ている学生たちをフォーラムに招き、地元企業から学生に対して企業情報の提供及び学生と企業側との意見交換を行った。

また、「若者1000人会議」という団体では、首都圏に住んでいる学生や若手社会人に対し、Uターン・ターンの就職相談や創業支援的な事業を行っており、こういった団体との連携を図り、当地域へ少しでも多くの若者が就職してもらえるような取組を進めてまいりたい。

(小山委員)

ワイン産業を地域ブランドへと作り上げていく取組において、特区を取得するだけでなく、働く人の住居への支援であったり、農地を転用しやすくしたりしてレストラン事業者が参入しやすくしたりするなど、ワイン産業の育成を支援するモデル事業・モデル地区のような特例措置を講じていただきたい。

長野県では県産ワインのブランド化を図る一つの手段として原産地呼称管理制度に取組んでいるが、長野県という大きなエリアでなく、東信エリアあるいは上田地域の圏域という一つのみとまりの中で取組んでこそ、本当のブランド化、本当の地産地消が図られるものと考えている。この東信地域、上田地域が、県内の他の産地に先駆けて、より小さいエリアで、本当の意味での地産地消と呼べる範囲でワインのブランド化を牽引して行けるような動きをしていただきたい。

(上田市政策企画局長)

上田市では、これまでワイナリー誘致の取組をしてきたが、今まさにワインの振興に向けたワイン特区の取得に向けて動き出そうとしている。上田市の考えとしては、ワイン特区の取得のみを目指すのではなく、ワインを地域ブランドとして、いかに地域で消費していただくか、また、製品を外へ売り出していくかという一連の取組のための一つ的手段であると捉えている。特区の取得についても、地域のブランド化、地域活性化を進めるうえで、広域での取得が良いのか、あるいは個別で取得した市町村ごとの特区が連携する特区のあり方が良いのかを、事業者の皆様のご意見をお聞きしながら、調査研究事業を通じて検討してまいりたい。

(伊藤委員)

平成26年度の取組の中で、上田駅乗降客への物産販売、観光PR等を連携して行うためのスペースという記載があるが、何か具体的な計画があるのか伺いたい。

(上田市観光課・上田市政策企画局長)

現状ではJR駅構内にJR系列の「しなの木」が営業しているが、観光PRが行うスペースとしては十分とはいえない。駅構内及び駅を出た周辺には民間の土地・建物があり、それらを活用した観光PR用のスペースの確保が検討課題であるということで資料に掲載した。現時点でお伝えできる具体的な案件はないが、今後、方向性や具体的な場所が決まってきた際には、関係事業者の皆様にご相談し、またご協力をいただきながら、一緒になって上田駅乗降客に対する観光PR、物産販売を行ってまいりたい。

(舟見委員)

関越自動車道渋川伊香保インターチェンジを起点とし、嬭恋村を經由して、上信越自動車道につなげる「上信自動車道」について、上田市か東御市のどちらのルートになるかで地域の交通網・まちづくりが様変わりすると思うが、現状ではどのようになっているか教えていただきたい。

また、構成市町村のうち嬭恋村だけが他市町村と路線バスでつながっていない状況にあるので、圏域間での公共交通の確保という意味において検討していただきたい。

(上田市管理課長、上田市政策企画局長)

上信自動車道の整備については、最終的には県の考えとなるが、現状では県からは具体的なルート案の提示はない。

嬭恋村のバス路線の新規運行については、すぐに具体的な検討に入ることは難しいかと思うが、嬭恋村から公共交通の要望等を伺いながら、圏域での地域公共交通のあり方について、広く研究してまいりたい。

また、運賃低減バスの実証運行について、過日行われた連絡協議会（2月6日）での首長同士の話し合いの中で、青木村の村長から、千曲バス青木線の運行を青木村まで延長する検討を進めたいという申出をいただいている。運賃低減バスの実証運行の範囲拡大については、広く関係市町村からの要望等を聞きながら調査研究事業の中で検討してまいりたい。

（下村委員）

今、東京方面から新幹線できた観光客が、上田駅を乗り継ぎ駅として、バスで上高地などの県内の観光地へ行き、上田駅に戻り新幹線で帰っていく旅行者が非常に多いと聞いている。東京方面の旅行者にとって上田駅が立地的に有利というならば、真田三代に関わる名所やワイナリ など、この地にある魅力的な観光地を周遊する旅行商品を造成し、PRしていく取組をもっと進めてもらいたい。

また、地域をアピールし地域を元気にするという意味において、たとえば修学旅行に行く子どもたちに観光地や特産品のPRをお願いするなど、上田地域の観光PRをみんなで盛り上げていく方法についても考えていただきたい。

（上田市観光課長）

東京駅から上田駅まで200km以内ということから、上田駅を乗り継ぎの場所として利用する旅行商品が多いことは事実として把握しており、上田駅をハブとし定住自立圏にある観光地を周遊し、滞在するというような魅力ある観光ルートの設定、広域観光圏の形成の強化を図ってまいりたい。

北陸新幹線金沢延伸への対応では、北陸方面からの観光客を呼び込むために、すでに圏域の市町村が連携し上田地域の認知度を高めるためのプロモーションを始めており、引き続きこの取組みを強化してまいりたい。

また、修学旅行に行く子どもたちに観光PRをしてもらうという大変貴重なご提言をいただいたので、定住自立圏の関係市町村とともに検討をしてまいりたい。

7 その他

（委員）

特になし

（宮本会長）

委員の皆さんには、熱心にご議論いただき、またスムーズな会議の進行にご協力いただき、感謝申し上げます。

8 閉会

（司会：上田市政策企画課長）

本日いただいた意見等は事務局で整理し、それぞれの取組事業で直ちに生かせるものは取り入れ、いただいた意見を参考に検討や調査研究を進めるなど、今後の取組に生かしてまいりたい。

終了 午前11:50